

サ
ロ
ン

出会い ふれあい 助け合い

あべの

NO.72

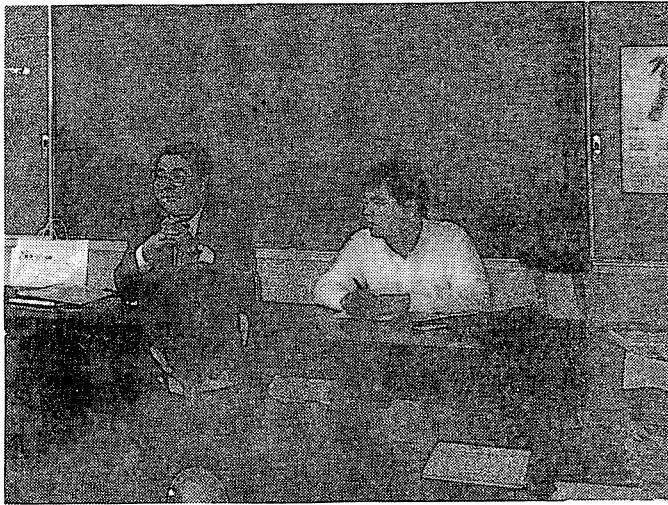
障害者と就労

毎月十二回(二・四・六・八の日)発行 一九九二年九月三日第三種郵便物認可

サロン・あべの五月の出会い

今月のテーマは「障害者と就労」ということで、大阪障害者職業訓練校で情報処理系の指導員をされている山田隆司氏をお招きし、障害者雇用の実態から具体的な訓練校の内容に至るまで、興味深いお話を伺った。

昭和六十二年に従来からの「身体障害者



雇用促進法」が改正され、翌年すべての障害者を対象とする「障害者の雇用の促進等に関する法律」が施行された。それによると従業員数六十三人以上の一般の民間企業は全従業員の一・六%以上の障害者を雇用しなければならぬことになっている。まだまだ未達成の企業も多いが、この十年ほどの間に、企業の側の障害者に対する理解は深まってきているようだ。

その雇用の種類としては、一、集中型(シャープ・松下など特選工場)、二、拡散型(各職場に一人ずつのNECなど)三、嘱託(一年契約社員)がある。

身体障害者の場合、身体障害者手帳に記されている級によって重度(一、二級)、中度(三、四級)、軽度(五、六級)に分けられることが多い。しかし就労ということに関しては、その障害の部位がどこであるかが特に問題となる。たとえ同じ等級であっても上肢に障害がある場合よりも、下肢障害の方が有利である。また、脳性麻痺や脳血管障害の場合、たとえ軽度であっても、やはり実際の作業能力を重視する傾向があ

り、次に体力的なものや、人柄の良さ(会社の中でほかの人とうまくつきあっていけるかどうか)などが重要なポイントとなってくる。

作業能力にはいくつかの検査方法があるが、訓練校ではその作業能力が訓練期間中にどれだけ上がるかを、文章理解度により予測し、その目標に沿ったカリキュラムを作り指導している。

また、実際に障害者を雇用している企業の、障害の種類別にみた配慮・工夫の状況では、肢体障害者に対する施設面での配慮・工夫が少し足りないようである。

そして、質疑応答では就労というよりも、訓練校そのものに関する具体的な質問が非常に多くを占めた。参加者のうち何人かからは、来年訓練校を目指すんだという意気込みが感じられた。答えの中から主なものをまとめると次のとおりである

訓練校を受験するには、まず職業安定所を通じて求職活動し、その上で何かの技能を身につけた方が就職に良いという判断から、職安の推薦をもらう必要がある。入校の条件は、身の回りの事や、通学が一人で

できること。試験は、適性検査と中学程度の国語と数学。学歴そのものは問われない。横文字のかわいい職種に人気があり、それに関係した訓練科目は競争率が高い。入校すれば、訓練手当てが支給される。訓練期間は延長できない。就職率は100%。寮や食堂の設備もあるということであった。

平成四年五月十六日(土)午後一時、育徳コミュニティセンター二階研修室に於いて開かれた五月の出会いには、三十二名もの参加があり、初めての方も含め、働くことへの関心の高さを示していたようだ。次々に飛び出す質問に、最後まで本当に丁寧に答えていただいた山田氏に感謝し、六月の見学会が楽しみだという声と共に、なごやかに閉会した。

司会 山村貴司
 まとめ 上平幸雄



参加された方々の 「障害者と就労」

「障害者と就労について」

田平雅之

先日、「サロン・あべの」の五月の出会いに於て、障害者職業訓練校の山田先生より障害者就労の実態についてお話を伺いました。

私自身も勤労障害者ですので、自らの体験も交えながら、障害者の就労について書いてみたいと思います。私は某家電メーカーに入社して今年で九十二年になります。職種は製造ですが、足腰に障害があるので重い物の持ち運びはとても困難です。

ところが、三年前にそういった事情を考慮されずに重い部品を扱う部所に移動させられて、大変苦勞した事がありました。それと、障害者雇用促進法に決められた1・6%という雇用率にあまりこだわるのも問題ではないかと思えます。障害者を雇

用するのに十分な設備や環境が整っていないのに、無理をして雇用率を達成しようとして入れるような事をする、かえって障害者に肉体的及び精神的な負担をかけることになり、マイナス面の方が大きいのではないかと思えます。

それと最近どの企業でも「適材適所」ということが言われていますが、障害者の場合は「出来る事」と「出来ない事」がはっきりしているのです、特にこういう事は徹底して欲しいと思います。

その為には、障害者側も「雇っていただく」という風に卑屈にならず、仕事をする上での環境や、設備に対する要求は積極的にするべきだと思います。

障害者と就労

山村 貴司

体が不自由な人にとって、仕事に就いて働きたいという気持は、誰もがもっている夢の一つだと思うが、現実には障害者の雇用の拡大はなかなかされていない。

その原因の一つとして「設備が整っていないから。」など企業が雇用しない理由があげられている。設備が整っていても雇用しない企業もあれば、設備が整っていても本人の適正を本当に判断して雇用してから、仕事をしやすいように改造する企業もある。

この違いはどこからきているのだろうかと考えるとき、結局、雇用する側の体の不自由な人に対する正しい認識をもっているか、いないかにかゝっているとであろう。社会全体に体の不自由な人に対する正しい認識が広がっていくには、国や自治体が一人数でも多くの人に、働く機会が得られるような啓発活動や、それ自身の雇用活動も大切ことだろう。

ただ、体の不自由な人自身も何もしないでは道は開けないので、自分に残されたものを最大限に使って、可能性を求めて、今自分ができること、したいことは何かを探していかなければならない。そして目標を見つけて、その目標に向かって努力しながら粘り強く、チャンスを持つことだと思う。

そして、そのチャンスが来た時、自分の力を精一杯出し切ることだろう。

うまくいかないことの方が多くても働きたいという意志がある限り諦めないことだ。



あべのたんぼぼ作業所バザー

久しぶりに、五月晴れになった五月十七日(日)。あべのたんぼぼ作業所「大阪市阿倍野区阪南町六一」恒例のバザーが同作業所前を中心にして、西六商店街の路上にテントが張られて開催されました。

通行整理の人が出る程の賑いを見せている通りには、お買い得用品、お楽しみ袋、手作りの小物や手芸品等の店、ゲームや植木コーナー。又、食べ物店は縁日の風景さながらに綿菓子、焼ソバ、フランクフルト等々の品揃え。そんな中で、誰もが素通り出来なかったのが、餅つきコーナー。昔懐かしい石臼で手作りされたお餅は、丸めるのも追いつけない程の売れゆきでした。

たんぼぼの仲間と地域の人達との楽しい出会いの一日でした。

「おもしろい 姉ちゃん」

田淵 美登利

「町」で逢った老女

精神薄弱者施設というのは、流れが非常にゆっくりとしたところがありますので、
 ▲サロン・あべのVに書かせていただくことで、いつもリ考える自分リであればいい
 など思っております。

ある当直の夜、

「Hさん(入所者)ぐらいの人なら、昔は地域でたくさん、それなりに暮らしてただけ
 どな...」みたいな話を聞き、私はそんな人達、知らんなあとと思いつ、帰宅した日のこと
 ことです。私のマンションの前を歩いて
 いるのです。

ザンバラ白髪に、シャツをめぐりあげた
 ヘソ出しルック。タバコをスポンにさしこ
 んだ老女...が。

あのおばあちゃんは、どんな暮らしをして
 いるのだろうか、少し心配もしてしまっ
 たのです。

おしらせ

七月の出会い

日時 七月十八日(土)午後一時~四時
 内容 「フルートとギターの午後」

フルート・沖村 朋子
 ギター・・伊藤 明弘

* クラシックの名曲・世界や日本の
 歌を集めて...演奏後トーク交換有

場所 育徳園三階「幸分ホール」

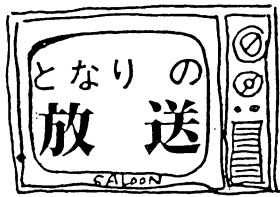
「大阪市阿倍野区阪南町五十一

二八...スロープ有り」

会費 五〇〇円

申込みと問合わせ先

TEL・06-691-1028 (富田慶子)



フレンズ サークル

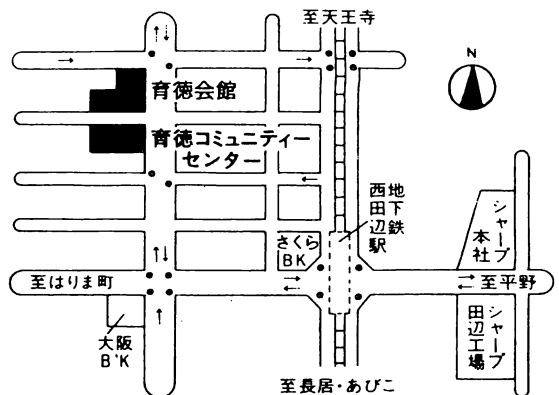
『ピース ハート』のおしらせ

日時：`92年7月5日(日)
 午後2時~4時30分
 場所：長居スポーツセンター
 2階の会議室

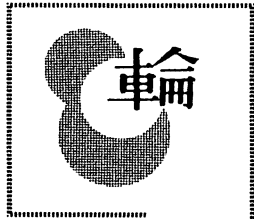
内容：七夕のつどい
 プラネタリウム・笹
 に願いを書く・その他
 楽しいゲーム等。

会費：大人=¥1000.
 中学生以下=¥500

申込み期間：7月2日迄
 申込みと問あせ先：松川耕三
 電話=0722-98-4933



ひろがれサロンの輪



障害者や健常者の出会いの場
「サロン・あべの」前代表の

富田 慶子さん

「町に出よう」という気も
功。翌年三月、サロンを正
わき、福祉講座やボランティア活動に参加。「自分で
福祉関係者や編集のペテ

点から線へ結ばれる人

何か出来ることはないか」と
といった思いが募って、仲
間たちと「障害者の社会参
加」をテーマにした集まり
を企画しました。

病気の再発で落ち込んで
いたとき、国際障害者年を
記念した詩の公募に入選、
レコード化されたのを機
に、外に出ることが多くな
りました。

障害者、健常者が一緒に
なつて一九八五年暮れ、ク
リスマス会を催して、大成

ラン、障害者ら十九人(現
十七人)のスタッフが、出
席は無理だけど、だれかに
いつでも自由に出会えるよ
うにと、集いの内容を載せ
たサロン紙を発行、四月で
七十号になりました。

でも、小さな点だったサ
ロンでの出会いが、人から
人へと輪が広がり線になっ
たな、と思っています。太
く長く伸びていって欲しい
ですね。

で集う、この思いがありま
すから、「ボランティア、
障害者」といった表現を使
っていません。だから、新
聞を見て来られた人が、障
害者の姿を見ただけで「ボ
ランティアはできな
い」「私には場違
い」と、言ってしまう



〈横顔〉阿倍野区在
住。小学1年の時、高熱
で手足が動かなくなり4
年間入院。20歳ごろには
一人で行動出来るまで回
復し、27歳で結婚。出産
後、再発し多発性関節リ
ユーマチと判明、薬の副
作用などもあって闘病生
活が続く。81年、国際障
害者年記念の詩「そよ風
ののって」が入選した。
電動車いす生活の49歳。

ナンペイの

ひとつこと&ふたこと。

言語障害も役にたつ?

阿倍野区の丸山会館で、毎週金曜日の午
後に開かれている「手話教室」に通うよう

になつて一年が経つ。

手話は、十五年ほど前に一度サークルに

入って勉強した経験があったので、指文字
やごく簡単な単語ぐらいなら表現できると
思っていたが、やはり十数年のブランクは
予想より遙かに大きくて「指文字ぐらいい
何とか…」と思っていたそれをさえも十分に
は使えないありさまだった。

それでも、ひとつひとつ「単語」を覚え
ていく楽しさやいろいろな人達と出会える

5月13日の朝日新聞(朝刊)に掲載されました

喜びが味わうことができ、なんとかほかのメンバーに遅れないようにと一年間がんばってやってきている。

そんな中でも、一番うれしかったことは「手話教室」に参加してくれているろうあ者のかたから、

「あなたの手話はとても分かりやすいですよ」とおほめのことを頂戴したときだ。

勿論「お世辞」という表現は不適當かも知れないが、

「少しは覚えて来ているし、これからやる気をなくさないで、頑張ってください下さい」という意味も込めて言っていただけだろう。

なにしろ若いときに比べて遙に記憶力は衰えているし、おまけに障害で余計な手の動きまで入ってしまうのだから夢にも上手な手話ができているなどと思ってもいない。ただ一つ「分かりやすい手話」になつているとすれば、その原因は私自身に言語障害があるからのように思う。

というのは、言語障害がある私は常日頃から「ことば」だけでは分かってもらいに

くい所をカバーするために、自然に身振りや手振りをまじえてだれに対しても話すようになってきている。このことが手話を学ぶうえでプラスになっているのかもしれない。それともう一つは、なるべく「言葉かず」を少なくしようと知らず知らずのうちに、「ことば」を選びを話を始める前にやっしまし癖がついているようだ。これも言語障害があるがための結果なのかもしれない。だから、ときとして、

「言葉がストレートなのはよいけれど、あなたはいい方がきつすぎる。」

などと言われたりして少なからずショックを受けたりもする。

つまり、いろんなクッションになるような「言葉」を省いてしまつて「要点のみ」をしゃべってしまう傾向があるようだ。

人と付き合う上できつと損をしていることも多いにあるだろうが、普通に喋るときにくられば遙かに少ない「言葉かず」を使いこなしてコミュニケーションをとらなければならぬ。「手話」にとつては、これが案外と得をしているのかも分からない。

ほんとうに僅かな例えになるかも知れないが、「障害」を持つ者にとってその「障

害」をどんなふうに使ひこなしていけば良いのかを考えさせてくれるひとつのヒントになるのかもしれない。

まだまだ勉強不足で、「手話が出来ません」などとてもおおっぴらにできる様なものではないのだが、いろんな人達と出会えたこととともに「手話教室」に通うことにして良かったことのひとつとして「ひとこと&ふたこと」書かせていただいた。

南光龍平

∞ サロン・あべの紙の

朗読テープが出来ました ∞

山本敏子さんのご協力で、サロン・あべの紙七一号の録音テープが出来ました。

バックナンバーは三九号から、七〇号の分があります。五〇号は五周年記念紙になつており、九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。

サロン紙朗読テープをご希望の方には、ダビングをしますので、富田までお申し出下さい。(☎〇六六九一一〇二八)

Volunteer Center

14

九 ボランティアセンターの機能(各論)

⑤活動の側面的援助

ボランティア活動は市民の自発的な活動であるから、ボランティアセンター(VC)や公的な機関などによる援助は、市民の主体性を引き出すとともに、それを尊重するように側面からサポートしていくことが条件である。したがってVCの機能は、活動への参加の意識づけや基本的な知識の提供を行う導入部分以外は、ほとんどが活動に対する側面的な援助である。ここでは活動を行うための条件整備として情報・場・機

材について取り上げているが、今後ふれていく「相談・助言」などの各機能についても側面的援助として行われるものである。

ボランティア活動に関する「情報」としては、優れた活動事例や研究の成果などボランティア活動そのものに関するものほかに、地域福祉の制度の動向や地域の話題など、活動を行う上で連携したり配慮すべき関連事項についても収集が必要である。

収集された情報はVCの中で利用できるようにするだけでなく、広報などを使って広く知らせていくこともボランティア活動に対する市民の関心を高めていくために役立つものである。

活動の「場」は、実際に活動を行う場となるだけでなく、学習の場となり、また、ボランティアどうしが交流し、議論し、計画し、憩い、互いに高めあう場となるものである。したがって、できるだけ自由に、制約されることなく使える場を提供していくことが必要である。「サロンあべの」をみても、活動が活発に行われているのはリーダーやメンバーの力によることはもちろんであるが、毎月のつどいや運営委員会などに比較的自由に使える場があることも見

逃せない要因なのである。

こうした「活動の場」については、市民から特別視されるような「ボランティアの城」になってはならないことや、公的な援助に頼り過ぎない「借家住まいの精神」が必要であることも指摘されている。しかし、活動の場の確保には大きな費用がかかることから、それらの指摘をふまえた上で、行政や企業などの協力が不可欠である。

「活動機材」は、活動に直接必要な道具などのほかに、ビデオなどの視聴覚機器、印刷機、自動車などの移送機器など、個人やグループでは所有しにくいものである。これらも個人やグループの活動時間などにあわせて、利用しやすいように配慮していくことが必要である。

原田 仁



自分には見えないものを

中学のころ、ぼくは四コマ漫画を毎週のように新聞に投稿し、いくつか当選させていたが、そのうちに、ぼくの漫画のファンだという見知らぬ一人の少女から手紙を受けとり、なんとなく文通するようになった。

電車でもいつても何時間もかかる遠くの街から、彼女は自分の日常を書きつづっていた。それは、ぼくの日常とはまるで違ったものだった。

彼女の中学は部落差別の問題で揺れていた。被差別の苦しさや家庭の悩みから自ら生命(いのち)を断とうとする親友を、彼女はかかえていた。気づきはじめたあまりに大きな社会の矛盾に、彼女は傷つき悩み、おそらくは疲れていたのだろう。級友と抱き合ったり泣いた夜が語られ、理解ある教師との堅い絆(きずな)を綴っていた。

手紙の内容は、漫画への「ファンレター」にはおよそ場違いのものであったが、少女は軽いユーモアの世界に、

ひとときの逃れを求めたのかもしれない。そして、逃れないままに彼女は重く、しかし深い友とのつながりを書かずにはいられたのだった。

いま思えば、たいへんな手紙を受けとっていたのだ。しかし当時のぼくはそれを読んでも何も感じなかった。不思議なほど何も心に残らなかった。むしろ理由もなく反発を覚えていた。そして、どこからかの借り物の言葉で、彼女を叱咤したり、彼女の手紙の登場人物を揶揄(やゆ)したりした。自分には理解できない人を、ひとは拒絶するものだが、少年のぼくも例外ではなかったのだ。

テストの成績と、クラブの先輩たちの「いじめ」と、来週の漫画のネタとが、ぼくの日常の悩みの全てだった。抱き合って生命(いのち)をわかちあうほどの友情を、ぼくは想像もしなかつたし、教師との関係もごく表面的なものだ。それだけに手紙に描かれたそ

の少女の日常は、ぼくを苛立たせた。そして気づかぬうちに彼女の悩みに冷酷になっていた。

彼女との手紙の交換は、長くは続かなかった。しばらくの空白ののち、ぼくは気づいたまま謝りの手紙を書いたが、その返事は、それまでのぼくの言葉に傷つき「なんて冷たい人なんだろう」と思ったと告白していた。それが少女の最後の手紙であり、それつきり住所も忘れてしまった。

深い人間の心のつながりを知らない人は、それを知らないことも知らないものである。だから、そのようなつながりをもった人に出会うと、自分でも気づかぬうちに妬み、冷笑し、刺(とげ)をもつようになる。

これからは、ぼくの理解できない人とそのつながりに触れ、理解できない深い真実をかいま見たとき、驚いた幼な子の目のままでいたい。自分には見えないものを、だからといって否定しないようにしたい。そして見えてくるまで、闇のなかにも忍んで立つて待つ勇氣をもちたいと願うのである。

(知)

美智子のこんな話



岸田 美智子

「車イス運びにも褒美」

記事を読んで

岸田 美智子

この記事は、大阪市交通局が車椅子の利用者の地下鉄の乗降時、職員に階段の上り下りを手伝うと、「褒賞手当」として、一回につき手動車椅子三五〇円、電動車椅子四五〇円を支給するというものです。

これは一九七八年から実施されていたようですし、私も以前、誰かから聞きおかしいなあと思っていました。

もう、一ヶ月以上も前に読んだ記事ですが、私の周りの障害者や介助者からは、未だに色々な意見を聞きます。

障害者からは、「好意だと思っていたのに……」とか「設備がおくれているのだから、当然。これで気兼ねしないで頼める」などや、「こんな事が判れば、職員がやればいいんだと、一般の人達が協力してくれなくなるのではないかと心配だ」という意見があるようです。

そして介助者からは、「どんどん支払うべきだ」とか「そんなお金があるのなら、スロープや、エレベーター設置費に回せばいい」という意見や、「褒賞手当はおかしい。介護料として、支払うべきだ」という意見もあります。

地下鉄のあの長い階段が、車椅子の私達の生活をどれだけ奪っているか、計り知れないものがあると思います。これからの高齢化社会でもどんどん大きな問題になって行くでしょう。

だからこそ、好意や褒美などというあいまいなものでは、解決出来ないと思います。

そして、このような状況では、車椅子の乗客はいつまでたっても、善意にすぎり乗せてもらうしかないのです。

そうではなく、車椅子などの障害者の乗客を、輸送機関は乗せる義務を営業の基本

にしてほしいと思います。仕事としてはつきり、位置づけてほしいのです。どんなにエレベーターなどの設備が整っても介助の必要な所が出て来ると思っています。皆さんはどう思われますか……???

■ 感謝します ■

カンバ・切手・ハガキ・書籍・冊子・バザー用の品・お茶菓子等ありがとうございます。お礼を申し上げます。

四月のカンバ 金九、〇〇〇円

秋野富美子、岩坪美枝子、加賀谷 正、

崎本ヒサエ、田平雅之、長島伊津子、

前田裕子、松本妙子、吉原和郎、

匿名様二名、 (敬称略)

編集後記

「今回のサロン紙は何か変わった」と思われたことでしょうか。久しぶりのピンチヒッターです。(石)さんのお帰りを待ちながら、よろしく願っています。

(は)

さろん亭

まもなく開店!!

8月2日(日)、あべのカーニバルの名物催し「さろん亭」が開店します。

物品を寄贈してくれはる人
準備を手伝ってくれはる人
売りにきてくれはる人
買いに来てくれはる人

いっしょになって「さろん亭」を手伝って
くれはる人をさがしています。
ご連絡ください。

◎お問い合わせ、寄贈物品の持って来てくれはるところは

石田 律	阿倍野区昭和町3-11-13	☎622-2018
井上憲一(セブ社)	々 西田辺町2-2-10-101	☎691-2365
辻本輝子	々 阪南町1-40-5	☎621-2241
富田慶子	々 阪南町6-3-26	☎691-1028
中原友喜	々 丸山通2-10-6	☎652-1208
山村貴司	東住吉区南田辺5-1-18	☎691-9071

品物をご連絡くだされば取りにおうかがいします。こわれるものでなければ
送料着払いでお送りくださっても結構です。厚かましいことですが、古本・
古着などご使用になったもの、および、なまものは遠慮させていただきます。

サロンあべの
＜サロン・あべの＞運営委員会

編集人；サロン・あべの運営委員会・＜サロン・あべの＞NO.72['92. 6.20 発行] 定価¥100.
代 表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-20-19-203 電話06-621-4365
連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028
表 題；斉藤孝文・筆
印 刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.